

O04-04

会場:302

時間:5月20日 14:15-14:25

糸魚川世界ジオパークバーチャルツアー ー糸魚川-静岡構造線と塩の道ジオサイトをめぐるー

竹之内 耕^{1*}、宮島 宏¹、茨木洋介¹
TAKENOUCHI, Ko^{1*}, MIYAJIMA, Hiroshi¹, IBARAKI, Yousuke¹

¹ 糸魚川市ジオパーク推進室

糸魚川の姫川谷は、古くから越後と信州を結ぶ最短の交易路であり、戦国時代に越後の上杉謙信が塩を送ったとされる古道、塩の道が通る。塩の道は、日本列島を二分する糸魚川-静岡構造線がつくった地形低地をたどる。たびたび土石流を吐き出す姫川の溪谷部を避けた結果である。ここには、断層の形成に関連した地形、地すべり、湖沼などがあり、往時の道標、石仏群、茶屋跡、地蔵、牛つなぎ石が残る。重い荷を運んだ歩荷（ボッカ）や牛方が使った運搬道具が塩の道資料館に展示されている。このあたりの一部は、今も新潟県と長野県の県境が定まっていない。往時の国境争いの押し引きが、諏訪大社による「薙鎌（なぎがま）打ちの神事」からしのばれる。7年に一度、今もはるばる諏訪から国境の見回りに来るのである。また、糸魚川は、東西日本の文化境界とされ、言語、食文化に名残がある。これら文化の伝播やその過程でのせめぎあいは、糸魚川-静岡構造線の形成と関連が深い北アルプスの隆起や谷地形の発達によって制約されたものらしい。塩の道をたどり、海と山の文化交流の一端をご紹介したい。